

## 【福島労働局からのお知らせ】

「協会通信」では毎月、福島労働局からのお知らせを掲載しておりますが、紙面の関係もあり、すべてを伝えているわけではありません。面倒でも、協会のホームページか福島労働局のHP、または厚労省のHPを時々チェックしていただきたいと思います。  
今回の協会通信は通常より、多少紙面の余裕がありますので、多めに掲載いたします。

### 1. 「働き方・休み方改善コンサルタント」の活用

過重な残業の強制などから自殺に追い詰められた事例や産前産後休暇所得者に対するマタハラ、上司によるパワハラなど、労働環境をめぐる諸問題がクローズアップされています。これらの問題は承知しているし、改善をしようと思っても、事業場単独の力だけで、解決することは至難の業です。

そのようなとき活用してほしいのが、福島労働局・雇用環境均等室の「働き方・休み方改善コンサルタント」です。コンサルタントは専門的な知識、豊富な経験を有する社会保険労務士などから選任されており、相談する事業場の実情に即したアドバイスを受けることが可能です。

無料で相談に応じます。労働基準監督署が立ち入ったり、指導することはありません。

相談窓口；福島労働局 雇用環境・均等室 0248-536-4609

協会HPに申し込み用紙あります。

### 2. 「無期転換ルール」をご存知ですか？

有期労働契約（例えば1年間の労働契約）を繰り返し通算5年を超えたときは、労働者の申し込みにより無期労働契約（＝正社員のイメージ）に転換するルールです。

ただし、定年後の継続雇用の高齢者の場合は無期転換申し込み権は発生しない。

★11月17日(木)に開催の『労災研修会』はこの「無期転換ルール」の講習を実施します。★

### 3. 「育児・介護休業法等が改正されます」

平成29年1月1日から施行される変更点

#### (1) 介護休業の分割所得

現行：1要介護状態ごとに原則1回 ⇒ 3回を上限として分割取得可能

#### (2) 介護休暇・子の看護休暇の取得単位

現行：1日単位 ⇒ 半日単位での取得可能

#### (3) 介護のための所定労働時間短縮等

現行：介護休業と通算して93日 ⇒ 介護休業と別、利用開始から3年間で2回以上可

#### (4) 介護のため残業の免除

現行：免除制度なし ⇒ 対象家族一人につき介護終了まで使用可

#### (5) 有期契約労働者の育児・介護休業取得要件の緩和

現行：子が1歳になった後も雇用の見込み ⇒ 子が1歳6か月まで、(介護の場合は9か月) 契約しないことが明示されていない

#### (6) マタハラ・パワハラなどの予防措置

現行：事業主による妊娠・出産・育児 左記に加え、上司・同僚のマタハラ・パワハラ禁止  
介護休業取得で不利益扱い禁止。 ⇒ 派遣労働者の派遣先にも育児休業による不利益  
マタハラ・パワハラ防止措置の義務付け

### 4. 各種助成金の案内

詳細は省略します。関心のある方は協会のHPへ。

#### (1) 非正規雇用労働者の処遇改善の支援 (キャリアアップ助成金制度を拡充)

#### (2) 受動喫煙防止対策助成金 (喫煙室の隔離費用、換気装置設置費用) (50人未満の事業場が対象)

#### (4) 業務改善助成金 (事業場内最低賃金を引き上げる助成金)



地下の免震構造の説明

### 【RST須賀川で市庁舎工事現場パトロール】

須賀川市の市庁舎建設現場のパトロールを実施いたしました。(写真だけ掲載いたします)



## 須賀川労働基準協会 通信 (28年11月)

協会の HP : <http://www.srkkyo.sakura.ne.jp> もご覧ください

10月は『全国労働衛生週間』から始まりますが、産業安全衛生大会の開催時期でもあります。労働基準協会にとっては例年、一年で最も多忙な月となりますが、今年も全国大会が仙台で行われたことから、全国大会参加という大きな一仕事に加わって、一層忙しい月になりました。

今月の「協会通信」は三つの安全衛生大会をメインニュースとして編集いたします。当協会の機関誌にあたる『協会だより』12月号で正式保存版として再掲いたします。

### 【須賀川地区産業安全衛生大会】10月12日(水)



須賀川地区産業安全衛生大会では、事業場表彰4社、安全功績者20名、衛生功績者12名を表彰させていただきました。写真は地区大会受賞者に加え、福島県大会受賞者及びご来賓のみなさまを囲んでの記念撮影。ご来賓は福島労働局から健康安全課長殿清水俊明様、須賀川市から商工労政課長補佐長澤泰和様、須賀川商工会議所から、専務理事市川守様にご臨席いただきました。

二部の講演は元NHKのアナウンサーで定年退職後、神主に転身した宮田修氏に「日本人の本来の生き方」について教えていただきました。



左：開会の挨拶をする吉田会長



中：後援をいただいた監督署の荒署長



右：講演をされる 宮田修

会員のみなさまは10月12日に須賀川地区産業安全衛生大会が開催されたことをご存知だったと思いますが、一般の地域の皆さんへの広報面では地元の新聞で取り上げられることで、協会の活動について知っていただく機会になっています。

ここでは取り上げていただいた、4紙の新聞記事を紹介いたします。



上段左 阿武隈時報 上段右 マメタイムス 下段左 福島民報 下段右 福島

## 【福島県産業安全衛生大会】10月6日(木)

福島県安全衛生大会は県内各労働基準協会が持ち回りで開催しております。今年は相双地区の相馬市での開催となりました。相馬での開催は10数年ぶりで、震災の被災以降初めての開催となりました。須賀川労働基準協会としては例年通りバスを仕立てて、県大会に参加いたしました。直接相馬市の会場へ向かわれた方もおり、25名の方が参加されました。

前述のように震災の被災以降初めての相馬での大会開催でしたので、少し早めに出発して、相馬港や原釜漁港等の震災被害地を視察させていただきました。震災被災記念館近くの慰霊碑には480名を超す犠牲者の名前が刻まれておりました。

県大会は毎年と同様に進められました。福島労働局長表彰として東北電力(株)須賀川技術センター(鈴木芳典所長)が表彰され、福島県労働基準協会長賞功労者表彰として、三瓶重機建設(株)の三瓶久三氏、福島交通(株)須賀川営業所の鈴木元氏が受賞されました。



県大会の様子(県協会長挨拶) 東北電力鈴木技術センター長 功労者賞(三瓶氏、鈴木氏)

<相馬市の印象> 編集員個人の感想ですが、相馬市は福島県の北東の端にあり、須賀川から見ると、遠隔地になるため、情報も少なかったのですが、今回相馬市を訪問して、街並みや震災からの復興の様子を見学して、市の姿勢や、ボランティア市民の活躍などを見聞きして、大変良い印象を持ちました。高速道路も間もなく開通するので、その時は再訪してみたいと思いました。

## 【全国産業安全衛生大会】10月19日(水)~20日

例年、10月に全国産業安全衛生大会が開催されているが、参加されたことがある方はそれほど多くないと思います。開催地が東京・大阪・名古屋・広島・福岡など、福島からは少々遠方の大都市で開催されているからだと思います。しかし、今年はその言い訳がききませんでした。10数年ぶりに隣県の仙台市で全国大会が開催されたからです。

その上に、須賀川地区を代表して、林精器製造(株)殿が発表をされることから、応援と勉強を兼ねて参加をすることになりました。例年は「県大会」と「工場視察」をワンセットにし、宿泊研修という形で実施しておりましたが、今年は、上記の理由から、「全国大会」と「工場視察」を組み合わせ、宿泊研修を実施いたしました。宿泊ということでハードルが高いのか、全国大会の参加者は15名と少人数でしたが、全国大会ならではの収穫もありました。

以下、全国大会の様子と内容を報告いたします。



①来賓祝辞の宮城県村井知事



②全体集会(1日目)の参加者



③発表する林明宏社長



④一斉にカメラを向ける参加者



⑤キリンビール仙台工場

### 【特別講演について】

写真撮影が禁止されていたので、写真はないのですが、特別講演のゲストは中村雅俊さんと唐橋ユミさんのトークショーでした。唐橋さんがいろいろ質問をし、中村さんが答える形で進行了。中村さんは率直でかつ素直な感じで、大変好感が持てましたが、協会通信で取り上げて報告するほどの内容ではありません。(失礼w) 中村さんの話で、強く印象に残った言葉がありましたので、それでご容赦ください。

中村さんは子供のころ『オダヂ・モッコ』と言われていたそうです。久しぶりに聞きました。ご存知だとは思いますが、「おっちょこちょいのお調子者」というような意味です。一気に親近感がわきました。

### 【全国大会で勉強になった点】

写真③の林精器(株)林社長の発表は大変立派な発表でした。外部からは計り知れないご苦労があったことを改めて知りました。

写真④は別の会場で行われた、「安全衛生分科会」の発表で参加者が一斉にカメラを向ける様子です。下記に示すように、全国大会では数多くの分科会があり、それぞれの分科会毎に20以上の発表(延べ270)が行われます。自分が勉強したいテーマを選んで、集中して聞けば、勉強になることは間違いありません。

- 分科会： 防災危機管理分科会・リクアセスメント分科会・安全管理活動分科会・中小事業場分科会  
機械設備等安全分科会・安全衛生教育分科会・第三次産業分科会・労働衛生管理分科会  
化学物質管理分科会・ゼロ災運動分科会・交通安全分科会・メンタルヘルス・健康管理分科会